

e-ビーフNEWS 北の牧場から

April 2024

十勝は春

日の出が早い。5時前から明るくなり、鳥たちが騒ぎ目覚めさせられる。暖かさが増し日中はポカポカから日の光が強く暑い。窓を開けるとスーッと冷氣、やはり寒いのですぐ閉める。周りの畑は、白から黄土色に衣替え。明渠と防風林の影にしか残雪はない。木々が枯れている今が、どこまでも遠く見渡せる。日高山脈の残雪がやけに白くくっきり、そこまで十勝平野が広々と続く 広いなあと感じる

牧場の牛たちは、衣替え。モサモサの冬毛とまとわりついたヨロイがぼろぼろとはがれてゆく。来月には牧野も乾き、放牧出せるのが待ち遠しい。早まりそう。福寿草も咲き、木々の芽も膨らんできた。冬のトンネルを出て春になる。



活動のお知らせ

- 3/5(火)~3/8(金) **FOODEX2024** 東京ビッグサイト
北海道十勝館にHOBA北海道オーガニックビーフ振興協議会出店 10名参加 来場者多数
- 4/11(木)13:30 **HOBA北海道オーガニックビーフ振興協議会 総会** とかちプラザ
記念講演会(13:30~15:20)
「工業的畜産から有機畜産への転換—世界の潮流と日本のこれから—」
愛知学院大学 経済学部 経済学科 関根佳恵教授 日本有機農業学会理事
- 6/8(土)頃 **環境リサイクル肉牛協議会 総会** 道総研畜産試験場

NEWSばか読み

- 23年度産米 穀検で猛暑でも特Aが増加、耐性品種が半数
3/1:温暖化でも対応
- 農水省 環境配慮☆ラベル運用開始 千葉県ヨーカ堂
3/2:消費者の反応は
- 気象庁 今季記録的な暖冬 史上2番目 全国雪少なく3/2:温暖化顕著
- 農水省 「日ASEANみどり脱炭素コンソーシアム」設立
3/2:政策の海外輸出
- シイタケの植菌済み菌床の輸入が激減 国産表示の厳格化で
3/3:表示の品位
- 農水省 1月農水産輸出が3ヶ月ぶりに増加 リンゴ倍増緑茶好調
3/5:全体伸長
- ホクレン家畜市場 ホル初妊牛相場が上昇60万円超え3/5:搾乳牛が不足
- 農水省 コメ24年作付け意向 飼料米は減少 転作助成減が影響3/6:
- 酪農家減少ペースが加速 1万戸割れ迫る3/6:止まらない
- 農水省 24年度小麦需給見通し 国内産100万t超え3/6:国産切替進む
- 米国農務省 農業センサス公開 65才以上と34才以下が増加
3/7:日本と対比
- 農水省 環境支払交付金要件を見直し脱炭素化とのやり取り3/8:
- JA全中方針 全JAで環境調和農業施策立案指示3/9:腰上げた
- 十勝で国際土壌分類会議6月開催 日本初3/5:土壌に目が向く
- 農研機構 乳牛の後ろ姿撮影で脂肪蓄積判定開発3/11:見返り美人
- 九大、双日ほか園芸用ハウスにCO2取り込み光合成促進
3/14:負荷低減方法各所に
- 24年春闘 満額回答続出3/15:経済に反映するか
- 家畜改良センター ホル初産にホル種付け推奨難産リスク軽減
3/15:乳牛改良進む
- 帯広佐々木畜産「佐々木牛」で輸出開始 タイ、アメリカ3/12:
- 22年度農業産出額 九州勢多く、コメ野菜増、酪農減3/15:反映
- 2023全国家畜市場価格ランキングで北海道10位以内に4市場 重量重視
3/19:変化
- 生分解マルチ22年度出荷量が 初減少 資材高が影響
3/19:みどり戦略に逆傾向
- 日銀17年ぶりにマイナス金利解除 利上げに
3/20:円高、農業資材、輸入食品の相場に注目
- 気象庁 エルニーニョ現象終息見通し 全国的に猛暑
3/20:これ以上暑くなるの
- 2月訪日客278万人 月別最多を更新ツアー客伸びる3/20:ウェルカム
- 23年冷凍野菜輸入額が3000億円突破 需要堅調小売りに拡大
3/21:シェア変化
- 全農 配合飼料価格4月6日4600円円下げ 原料産地豊作見通し
3/22:国際相場
- Jミルク 脱脂粉乳在庫減ながら対策継続3/22:販売促進
- ファームノートDP(酪農 中標津)Jークレジット活用3/23:まだ未知数
- モスバーガー国産牛100%パティ定番化 日本の味文化に答えて
3/23:定着するか
- 農水省調査 食品アクセス困難者 高齢者4人に一人900万人
3/25:大切な消費者
- 農林中金 鹿児島漁協 牛メタン削減海藻飼料の実用化へ3/26:検証
- 横浜市 下水道汚泥からリン回収施設完成3/28:内容分析必須
- 農水24年度予算確定 2.3兆円(国家予算の2%)
3/29:安全保障確保できるの
- 都道府県24年度農水予算 半分は昨対減
3/30:問われる農政に対する真剣度

東京直近NEWS(3/29 Shi-REPORT)

ホルス

市況相場は停滞傾向変わらずも、産地はコスト上昇から産地相対取引価格は高値維持。販売状況は不需要期と年度末控えており在庫調整の意図からも停滞状況。

スライス切落し以外の上位部位は特に荷動き悪く、ロース、カタロースは弱い。トモバラも輸入物高値から問合せあるものの、要求単価が安価。5月GW前後オーダーでロイン、赤身、バラ系の問合せチラホラ。切落し関係、リップ、ブリスケ等引合も販売は基本苦戦で全般鈍い。産地の枝肉相対価格は高値維持も、販売府不調から価格の折り合い難しく。

経産牛

経産牛相場は高値維持。
出回り頭数の減少傾向から相場は強気状態。
今期に限っては年度末にも関わらず淘汰処分牛は少ない。
販売は一定需要維持も輸入物コスト上昇と数量不足傾向からトモバラ、ブリスケの引合は強く余剰無し。
挽材は各産地在庫減少傾向から数量調整や価格改定の動きあり。
頭数不足基調からの相場上昇、販売数量調整の動きになりつつある。

1. 肉用牛研究会報116号(2024.1)

6~13ヵ月齢におけるパイパスリジンおよびメチオニン給与が黒毛和種去勢肥育牛の発育および出荷成績に及ぼす影響(磯崎良寛 他、福岡県農林総合試)

黒毛和種牛に代用乳を減らし、人工乳を増量する強化哺乳と粗飼料多給で育成し、6~13ヵ月齢時にパイパスアミノ酸(BA)を給与し、肥育27ヵ月齢出荷までの増体成績を検討しました。BA給与は大豆粕より肥育中期のNDF摂取が増し、出荷体重が増加しました。

2. 畜産関係新技術発表会(2024年2月、北海道畜産技術連盟・北海畜産協会)

(特別講演)和牛における出荷月齢短縮技術の現在における到達点と将来展望(浅田勉、群馬浅間育牧)

農水省の肥育牛早期出荷(24~26ヵ月齢)目標への群馬県畜試の取り組みとゲノミック評価を活用した和牛雌牛の改良と交配および肥育成績検証の報告です。肥育期26ヵ月齢出荷でも濃厚飼料4,700kg以上が必要で、和牛雌牛の改良にはBLUP法より結論が早いゲノミック評価を用いており、雌牛の飼養では育成期の過肥を防止する必要があります。

3. 日畜会報95巻、1号(2024年2月)

(1)黒毛和種経産牛の産次数および再肥育期間が画像解析で算出した脂肪色に及ぼす影響(野村風沙、口田圭吾、帯畜大)

わが国の黒毛和種経産牛は肉牛資源の約30%ですが再肥育の長さにより脂肪の黄色化で肉質等級が下がります。再肥育1年以内の504頭の黒毛和種経産牛の画像解析の皮下・筋間脂肪について脂肪色を検討しました。平均産次6.9、再肥育期間5ヵ月で脂肪色のb*値(黄色)は有意に減少しました。

4. 畜産技術825号(2024.2)

技術情報:反芻家畜からのメタン放出を抑制する飼料開発(西田武弘、帯畜大)

反芻家畜の第一胃発酵によるメタン産生は全世界の温室効果ガス(GHG)の30%に及びます。スイスMootral社との共同研究でニンニクと柑橘類の抽出物にメタン産生の削減効果があることが羊で確認されました。また、牛の第一胃液でユーグレナや陸上養殖した海藻のカギケノリにメタン生成の抑制効果が認められその飼料化が開始されました。

国内情報:世界農業遺産に認定された美地方域の但馬牛飼育システム(秋山敬孝、兵庫県但馬 牧場公園)

世界農業遺産は持続的に維持・管理されてきた重要な農林水産業の地域システムを国連FAOが認証する制度です。兵庫県美地方は人と牛が共生する伝統的な但馬牛のシステムで棚田など地域の生態系と調和した畜産が展開しています。但馬牛の子牛と米が主要な農業生産で、畦畔草の利用や放牧で但馬牛を飼育、雌牛の改良に他の地域から牛を導入しない血統集団を形成し、黒毛和種の遺伝資源となっています。

5. 畜産技術826号(2024.3)

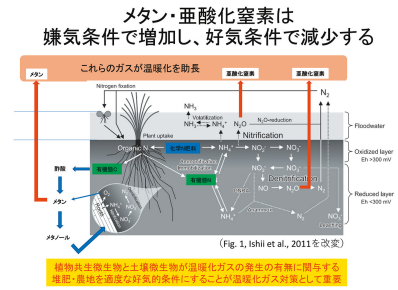
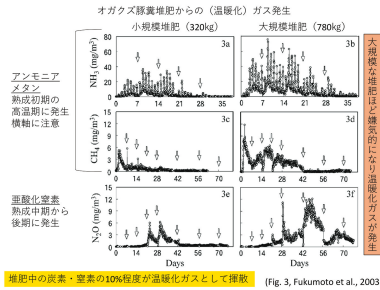
(1)技術情報:黒毛和種への徐放性尿素製剤の給与効果(鎌田文弘、青森県産技セ)

タンパク質資源として黒毛和種にも利用の大豆粕価格が高騰し、その代替資源とし尿素を油脂で皮膜加工して牛第一胃内徐放性を得たオルテック社製の「オプチゲン」を黒毛和種の離乳子牛(2-5ヵ月間、40g/日)と肥育牛に(5ヵ月間、100g/日)給与しました。「オプチゲン」は大豆粕給与と比較して有意差はなく代替が可能のようです。

資源循環型肉牛生産シンポジウム 2023

転載・再利用は固くお断りします

基調講演「脱炭素社会における堆肥利用を軸とした耕畜連携・資源循環型農業」5回シリーズ③ 北海道農業研究センター 芽室研究拠点 池田 成志氏



農業における炭の多面的な施用効果 (Gurtler et al., 2012他)

- ・ 土壌の排水性(粘質土)・保水性(砂質土)の改善
- ・ 土壌の水分保持能の改善・養分流出の抑制(肥料が減らせる、土壌水の富栄養化・酸欠、根の腐敗防止)
- ・ 根腐菌との共生促進(定植時の活着促進、作物への養分吸収促進)
- ・ 土壌(微生物)の多様性の増加
- ・ 地上部・地下部の病虫害軽減(ダニ、ウドンコ病など農薬が減らせる)
- ・ 改種時の活着促進(連作障害の軽減)
- ・ 残留農薬・化学物質の分解促進
- ・ 重金属・農薬等の植物・動物・ヒトへの移行・吸収の抑制
- ・ 土壌の凍結や高温、乾燥等のストレスの緩和、
- ・ 土壌への炭素貯留による温暖化抑制

注意点

- ・ 圃場に直接大量に施用すると窒素分などの養分欠乏を引き起こすリスク
- ・ 種子粉砕や土壌に施用した農薬の効果が減少
- ・ 住宅・家具等の炭材由来や品質不明の(外) 圃場に注意
- ・ 高濃度の防除剤や農薬、汚染物質、重金属などに汚染されている可能性

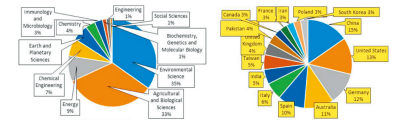
炭を混和して熟成した炭堆肥の有用性が世界的に注目されている

表3. 炭堆肥の炭の主な理化学的作用と有用効果

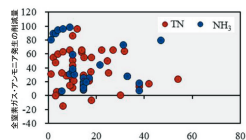
炭の主な理化学的作用	主な有用効果
通気性・好気性の向上	悪臭と温暖化ガスの減少
堆肥の温度の増加	衛生害虫の発生抑制
高温期の最高温度の上昇	堆肥熟成期間の短縮
熟成時の高温期の長期化	殺菌効果・有機物分解促進
化学物質の炭への固定	殺菌効果・有機物分解促進
	堆肥の肥分化・養分漏出抑制
	重金属・薬物の不活化・分解
	腐植の生成促進

(ニューコントリブー2023年11月号)

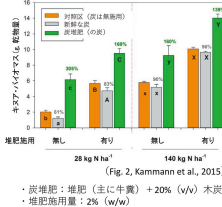
炭堆肥の世界的な研究情勢(2008年-2020年)



堆肥に混和する炭の施用量



作物の生育は施肥レベルに関係無く、炭堆肥>堆肥≧堆肥+炭>無堆肥>炭



堆肥熟成中における炭の品質向上効果

